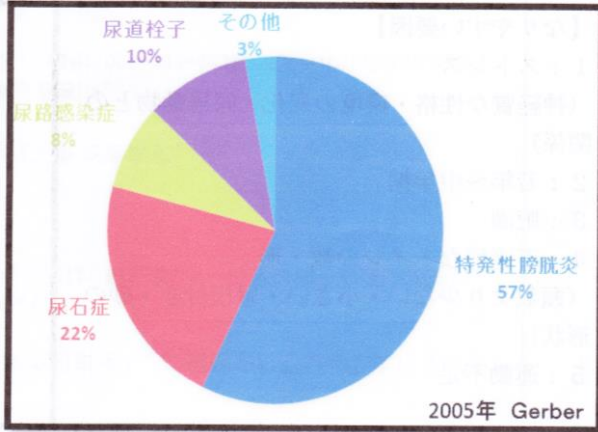


わんにゃん通信

2020. 7月号 担当: 田中

今回は猫の特発性膀胱炎についてです。



猫の**特発性膀胱炎**は細菌感染や結石などが原因せずに起こる原因不明の膀胱炎です。

近年ではストレスが関わっていることがわかってきており、猫の下部尿路疾患の約6割がこの**特発性膀胱炎**であるという報告が数多く発表されています。

「症状」

排尿困難: トイレにいる時間が長い・ポタポタとしか出ない・全く尿が出ない

頻尿: 少量ずつトイレに行く

排尿痛: 排尿時に鳴く

血尿: 薄い橙色～鮮血まで程度は様々

不適切排尿: トイレ以外で排尿する



「なりやすい要因」

1. ストレス: 神経質な性格・環境の変化・同居動物との関係
2. 若年～中年期
3. 肥満
4. 不適切なトイレ: 頭数より少ない・小さい・屋根付き・砂の形状
5. 運動不足



「診断」

特発性膀胱炎に関して特徴的な検査上の異常がなく

細菌や結晶など膀胱炎の原因となるような異常が見つからない膀胱炎

という除外診断によるのが現状です。



「治療」

原因は完全には解明されていませんがストレスが病態に関わっているとされています。

そのため、環境の改善やストレスの緩和などを目的に作られた専用の食餌療法が再発

防止に使用されます。

環境の改善の一つとして、トイレを見直してみましょう。

屋根付きではない、大きなトイレで、
紙や木のチップではなく、一般的な
固まる砂のトイレがいいと思います。



小さいトイレ 屋根付きのトイレ 砂ではないトイレは猫ちゃんはあまり好きではありません。

